キナウル語の使役表現 *

高橋　慶治

1. はじめに

本稿では，主としてキナウル語の使役表現を記述する。他のチベット・ビルマ諸語と同様，キナウル語にも，動詞の形態変化によって使役を表すことのできる自他対応と呼ばれる現象がある。第 2 節では数は多くないが，他のチベット・ビルマ諸語に見られる自他対応のパターンを例示する。また，第 3 節では，動詞の不定詞と使役動詞を使った迂言的な表現を見る。

1.1. キナウル語の概要

キナウル語は，チベット・ビルマ語派西ヒマラヤ諸語に属する言語の一つである。西ヒマラヤ諸語は，インド西北部のヒマーチャル・プラデシュ州およびウッタラカンド州に分布する言語群であり，キナウル語はその西部グループであるキナウル語群に属し，ヒマーチャル・プラデシュ州キナウル地区で話されている。人口は 5 万人程度であるが，他のインドの少数民族と同様，若い世代で主としてヒンディー語を使うようになってきており，今後，母語話者が激減する可能性がある。

方言的には，大きく上キナウル方言と下キナウル方言に分けることができる。上キナウル方言はチベット語からの借用が，下キナウル方言はヒンディー語からの借用が多いと言える。方言間の差は比較的小さいようであるが，詳細は今後の調査に待たなければならない。

* 本稿は，2015 年 1 月 25 日に京都大学人文科学研究所で行われた「TB 諸語における「使役文」」に関わる研究会での発表をまとめたものである。研究会においてさまざまな意見をくださった皆さんに感謝の意を表する。この研究は，これまで受けたさまざまな科学研究費補助金の成果の一部である。とくに，動詞形態論を中心とする研究テーマで受けた科学研究費補助金基盤研究（B），#26284063，2014–2016 年度「南アジア諸言語の文法記述研究―言語類型論的視点から」（研究代表者：総合地球環境学研究所名誉教授　長田　俊樹），基盤研究（A）海外学術調査，#16H02722，2016–2019 年度「チベット・ビルマ語族の繋聯言語の記述とその古態析出に関する国際共同調査研究」（研究代表者：国立民族学博物館名誉教授　長野　泰彦），基盤研究（C），#17K02735-0004，2017–2019 年度「キナウル語の現地調査：会話文例の収集と動詞形式の分析」（研究代表者）など，および，所属大学から受けた研究費によって行われた調査での資料を中心とする。調査は，1997 年以降，ほぼ毎年 1 回ないし 2 回，それぞれ数週間程度行ってきた。この間，筆者の執拗な質問に根気よく答えてくれたインフォーマントの Ravinder Singh Negi 氏に感謝の意を表する。また，氏とともにつねに変わらぬ好意で筆者を受け入れてくれる，氏の家族に感謝の意を表したい。

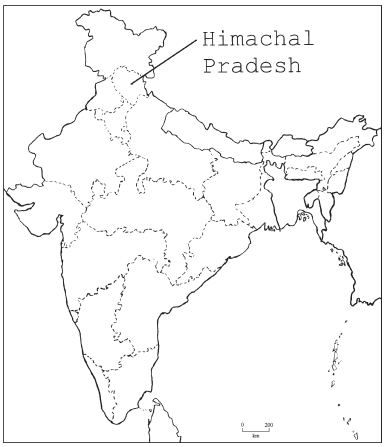

図 1　インド

図 2　ヒマーチャル・プラデシュ州と
キナウル地区

キナウル語の基本語順は，SOV/AN である。また，格標識が名詞に後置されるか，または名詞の末尾に接辞として付加される。動詞は，代名詞由来とされる主語人称接辞のほか目的語人称接辞を取る。ただし，目的語人称接辞は 1，2 人称が同形であり，3 人称目的語を表す接辞はない。

2. 自他対応

西（1993）は，Sharma（1988）などの過去の研究に従って動詞を整理し，キナウル語で自他対応が少なくなってきているとする。

9）動　詞　　動詞は，自動詞と他動詞に分けるが，チベット・ビルマ語系に広く見られる，語根の初頭子音の有声・無声の対立による，自動詞（有声音）・他動詞（無声音）の区別が残されている動詞語根はわずかである。

自動詞	他動詞
bər-「燃える」	pər-「燃やす」
bra-「広がる」	pra-「広げる」
bəš-「割れる，砕ける」	pəš-「割れる，砕ける」
don-「出る」	ton-「出す」
doŋ-「開く」	toŋ-「開ける」

同様に，わずかであるが，自動詞あるいは他動詞が，古い接頭辞 /s-/ によって使役動詞となっている例がみられる。この形態論的過程も，すでに，非生産的な過程である。現在の生産的な使役動詞は，｛動名詞 +/šen-/「送る」｝の複合動詞の形式を取る[1]。（西 1993: 83）

しかし，実際にはこれ以外にも自他対応する動詞対がある。以下の (A) ～ (C) にその一部を示す。

他動詞	自動詞	他動詞の意味
(A)		
spyug-	*byug-*	「（火を）消す」
skwad-	*kʰwači-*	「沸かす」
skrab-	*krab-*	「泣かせる」
stuṅ-	*tuṅ-*	「飲ませる」（*tuṅ-*「飲む」）
stod-	*tod-*	「坐らせる」
skum-	—	「寝かせる」
(B)		
kʰel-	*gel-*	「折る，裂く」
kʰoṅ-	*goṅ-*	「曲げる」
pʰar-	*bar-*	「破る」
pʰī-	*bī-*	「持ち出す」（自動詞：「行く」）
pʰrus-	*brus-*	「（壁，家を）壊す」
(C)		
čod-	*ǰod-*	「点ける」
twaṅ-	*dwaṅ-*	「開ける」
paš-	*baš-*	「割る，潰す」
prā-	*brā-*	「広げる」（自動詞：「溢れ出る」）
pɨd-	*bɨd-*	「持って来る」（自動詞：「来る」）
(C’)		
ṭɨg-	*rɨg-*	「壊す」
ṭag-	*rag-*	「濡らす」
(D)		
pog-	*pogši-*[2]	「燃やす」
šog-	*šogši-*	「乗せる」
sū-	*sūši-*	「洗う」（自動詞：「自分の身体を洗う」）
hud-	*hušī-*	「教える」（自動詞：「勉強する」）

[1] この引用で「動名詞」と呼ばれている形式を本稿では「不定詞」と呼ぶ。また，/šen-/ という形式は，本稿では *šed-* とする。西（1993）の表の don-, ton- も，本稿の形式ではそれぞれ *dod-*, *tod-* となる。この形式の違いは，高橋（準備中）を参照のこと。

[2] *pog-* に対する自動詞形には *bog-* もある。

(E)		
tub-	*tubči-*	「貼る」
yab-	*yabči-*	「飛ぶ」（いずれも自動詞）

(A) は，接頭辞 *s-* を持った他動詞と自動詞の対である。動詞に接頭辞 *s-* を付ける操作は生産的ではなく，西（1993: 83）の指摘のとおりこのような対は多くないようである。しかし，*skrab-* と *krab-* などの対応に見られるように，キナウル語で独自の発達をしたと思われる動詞もあるので，この接頭辞 *s-* の生産性が全くないとも言い切れない。

また，*skum-* のように *s-* を持つ他動詞に対して，*s-* を持たない対応形式がないこともある。他動詞 *skum-*「寝かせる」に対応する自動詞「寝る」は *yag-* である。

本稿では，接頭辞 *s-* を付加して作られた他動詞を s-使役と呼ぶことにする。

(B) は無声有気音と有声音の対立の例である。

興味深いのは，*pʰī-* と *bī-* のような対立である。*bī-* は直示中心から出ることを表す「行く」という意味の動詞である。この動詞の初頭子音を無声有気化することによって他動詞化し，目的語が表すものを直示中心から持って出ることを表す。ここから，キナウル語で独自に対立を作っているものがあるのではないかと思われる。

(C) は無声無気音と有声音の対立である。キナウル語では，この対立が，他の対立に比べ，やや多いようである。

(C’) は，初頭子音が無声無気音の他動詞に対応する自動詞の初頭子音がたんに有声音なのではなく，ふるえ音になっている。同様の音対応に，語中で有声化する際に捲舌閉鎖音がふるえ音化する現象がある。*ṭug* ‘6’ と *sōrug* ‘16’ を参照。

(D) と (E) は，(A) ～ (C) のパターンに見られるような対応ではなく，中動態接辞を利用する対立である。

(D) は中動態接尾辞 *-ši* を使って他動詞を自動詞化する例である [3]。

(E) は中動態尾接辞 *-či* を使う例である。

この接尾辞 *-či* は，1–2 人称目的語を表す目的語接辞と同じ形式であり，意味的には曖昧な場合もある。*tub-* と *tubči-* は他動詞と自動詞の対であるが，*yab-* と *yabči-* はいずれも自動詞である。今のところ，その意味の違いは明確ではない。

中動態接辞 *-či* を持つ動詞は，*-ši* に比べより自動詞的な印象を与えるが，かならずしも生産的とは言えない。

なお，*-ši* や *-či* を持つ自動詞に対し，それらの接辞が付加されない他動詞がない場合がある。つまり自動詞しかないことがあり [4]，これを擬似中動態と呼ぶことにする。

以下に具体例を見る。

[3] キナウル語の中動態接辞は再帰，相互，自動詞化，集合的複数などの意味を持つ。キナウル語の中動態については Takahashi（2012）を参照のこと。

[4] *ši-* が付いていても，目的語を取る場合があるが，主語は具格を取らない，つまり能格構文にならないようである。

(1) は，自他対応する動詞の例である。(1a) は自動詞で，「燃える」の意味である[5]。

(1) a. *ǰu* *kɨtāb* *mēliṅ.u* *dɨṅ* *tʰa.tā.ň,* *ǰu* *bog.tō*
this book stove.GEN place PROH.put.2SG:S this burn.FUT
この本をストーブの近くに置くな，本が燃える。

b. *gɨ.s* *mē.s* *gasā* *pog.a.k*
1PRN:SG.INS fire.INS clothes burn.PT.1s
私は火で服を燃やした。

c. *gɨ.s* *mē.s* *gasā* *bog.i.m* *šē.k*
1PRN:SG.INS fire.INS clothes burn.LV.INF send.1s
私は火で服が燃えるようにした。

(1b) は「燃やす」という意味の使動詞であり，(1c) は迂言的使役文になっているが，実際の意味は「燃やす」で，*pogak* を使った (1b) と同じ意味である。

なお，次の例のように他動詞では，事象キャンセルが可能である。

(2) *gɨ.s* *mēliṅ.u* *den* *tī* *skwā.k,* *do* *ma.kʰwač*
1PRN:SG.INS stove.GEN on water boil.1s that NEG.boil
私はストーブで湯を沸かしたが，沸かなかった。

s-使役は強制的なニュアンスがある。被使役者が意志的に動作を行っていない。*stuṅ-* は，牛を *nāgastī*（湧き水の名）に連れて行って，飲ませることを表す。

(3) *gɨ.s* *laṅ.ū* *nāgasti.u* *dɨṅ* *tī* *stuṅ.to.k*
1PRN:SG.INS cow.DAT PLN.GEN place water make_drink.FUT.1s
私は牛にナーガスティーで水を飲ませた。

(4) は，Pradeep の意志に反して無理に飲ませることを表す。

[5] 以下の例文の略号は次の通り：1 = 1 人称，1-2 = 1 人称または 2 人称，2 = 2 人称，3 = 3 人称，ATTR ＝連体形，COM ＝共格，COP ＝繋辞動詞，DAT ＝与格，DIM ＝指小辞，DST ＝遠称，EMPH ＝強調，FUT ＝未来，GEN ＝属格，HON ＝敬語，IMP ＝命令，IMPF ＝未完了，INF ＝不定詞，INS ＝具格，LOC ＝位置格，LV ＝つなぎ母音，NEG ＝否定，NOM ＝主格，O ＝目的語，OBLG ＝義務，PF ＝完了，PINF ＝派生不定詞接辞，PL ＝複数，PLN ＝地名，PR ＝現在，PRN ＝代名詞，PROH ＝禁止，PRX ＝近称，PSN ＝人名，PT ＝過去，S ＝主語，SG ＝単数

(4) *gɨ.s* *pradīp.ū* *čā* *stuṅ.udu.k*
1PRN:SG.INS PSN.DAT tea make_drink.PR.1s
私はプラディープに（強制的に）茶を飲ませている。

stuṅ- は，被使役者が自分の意志を表出できない動物や赤ん坊について用いられる。
以下は，「泣かせる」と「坐らせる」の例である。

(5) *gɨ.s* *nu.pɨṅ /*nu* *skrab.to.k*
1PRN:SG.INS that:PRX.DAT/that:PRX:NOM make_cry.FUT.1s
私は彼を泣かせる。

(6) *gɨ.s* *čʰaṅ.ū* *kurusi.u* *den* *stō.k*
1PRN:SG.INS child.DAT chair.GEN upon make_sit.1s
私は子供を椅子に坐らせた。

以上，いずれも被使役者は意志的ではない。
下の例で，*skum-* に対応する *gum-* や *kum-* という形式の動詞はない。

(7) *tetē.s* *an.e.nū* *spāts.ū* *skum.m.ū* *taṅes*
grandfather.INS self.PL.DAT grandchild.DAT make_sleep.INF.PINF for
dō *pɨšṭiṅ.ū* *tuptupya.ō* *du.e.š*
that:DST:GEN back.DAT pat.IMPF COP.PT.3s:HON
おじいさんは孫を寝かせるためにその背中をたたいていた。

次の文は，自他対応する自動詞が通常無意志的な意味を持っていても，命令文で使えなくはないことを表している。

(8) *?kim!* *brus*
house break
家！　壊れろ。

ただ，命令文では完全に適格にはならないので，自他対応する自動詞が意志的ではない場合があるということを示している[6]。

[6] 例えば，*bī-*「行く」は意志的でもあるので，有対自動詞がすべて無意志的であるとは言えない。

3. 使役文

本節では，迂言的な使役構文を見る。キナウル語の使役文は，基本的に動詞の不定詞形と動詞 *šed-* ‘send’ の組み合わせによって表す (9)。

(9) Vstem.*m(.ū)* + *šed-*

不定詞は動詞語幹に接尾辞 *-m* を付加して作る。また，使役文を作る際には，この不定詞にさらに接尾辞 *-ū* を付けた形式が用いられることがある[7]。これをここでは u-不定詞と呼んでおく。

次の 2 例は，u-不定詞を用いている例である。

(10) *gɨ.s* *aṅ* *čʰaṅ.ū* *tsʰā* *kan.n.ū/kan* *dukʰān.ō*
1PRN:SG.INS 1PRN:GEN child.DAT salt bring.INF.PINF/bring.INF shop.LOC
šešē *tō*
send:PF COP
私は，塩を運ばせるために子供を店に送った。

(11) *aṅ* *amā.s* *aṅū* *līṭ.ā* *zog.m.ū/zog.i.m* *dukʰān.ō*
1PRN:GEN mother.INS 1PRN:DAT egg.PL buy.INF.PINF/buy.LV.INF shop.LOC
še.č.e.š
send.1-2O.PT.3S:HON
私の母は，卵を買うために私を店に送った。

不定詞を使う場合と u-不定詞を使う場合の違いは明確ではない[8]。ただ，u-不定詞を使った場合には，厳密には「～するために人を送る」という文字通りの意味がありうるので，本稿では u-不定詞を用いた使役文は対象としないことにする。

3.1. 強制的かどうか

キナウル語の使役文では，使役者が被使役者に動作を強制するか許可するかは区別されない。つまり同じ形式で表される。

前節で見たように，使動詞を作る接辞 *s-* をもつ *stuṅ-* は，被使役者が自分では飲めないことを表しているのに対し，迂言的な使役文では被使役者は自分で飲めるものであることを前提としている。(12b) では，牛小屋の戸を開けて牛を放つ

[7] 不定詞形の詳細については高橋（準備中）を参照のこと。
[8] 無意志的な有対自動詞の u-不定詞は迂言的使役で不可になるなどの違いはあるが，その違いの分析は今後の課題である。

だけでもよい。その点で，*šed-* は「送り出す」という意味を残している。(12c) で Pradeep は必ずしも飲まなくてもよい。

(12) a. *gɨ.s* *aṅ* *čʰaṅ.ū* *gaṭō.ts.dā* *kʰeraṅ* *tuṅ.i.m*
1PRN:SG.INS 1PRN:GEN child.DAT some.DIM.some milk drink.LV.INF
šē.to.k
send.FUT.1s
私は赤ん坊にミルクを飲ませる。

b. *gɨ.s* *laṅ.ū* *tī* *tuṅ.i.m* *šē.to.k*
1PRN:SG.INS cow.DAT water drink.LV.INF send.FUT.1s
私は牛に水を飲ませる。

c. *gɨ* *pradīp.ū* *čā* *tuṅ.i.m* *šē.to.k*
1PRN:NOM PSN.DAT tea drink.LV.INF send.FUT.1s
私はプラディープに茶を飲ませる。

意志的な動詞の使役文では，埋め込み文の動詞が表す動作が強制される場合と許可される場合がある。(13) は意志的な動詞であり，どちらの解釈もありうる。

(13) *mē* *gɨ.s* *nu.pɨṅ* *piō* *bī.m*[9] *šē.k*
yesterday 1PRN:SG.INS that:PRX.DAT PLN go.INF send.1s
私は昨日彼をレコン・ピオに行かせた。

被使役者は与格で表される。次の文では，*šečeš* が目的語接辞 *-č* を持っていることから被使役者が 1 人称の目的語であることがわかる。そして，1 人称の被使役者が与格になっている。

(14) *aṅ* *pēraṅ.ā.s* *aṅū* *dillī* *bī.m* *še.č.e.š*
1PRN:GEN family.PL.INS 1PRN:DAT PLN go.INF send.1-2o.PT.3s:HON
私の両親は私をデリーに行かせた。

この文では，インフォーマントによると強制的な意味より許可を与えている印象を与えるようである。動詞 *šečeš* が敬意を表す 3 人称主語の接辞を取っており，主語に敬意を示すということによって，話し手が強制を受けていないと感じていると解釈されうる。したがって，動詞が敬意を表さない *šečē* の場合は強制を感

[9] この例では，*bīmū* が使えない。u-不定詞が使えない例があるが，詳細は不明である。無意志的な自動詞が使役文に使われる場合は，u-不定詞が使われない場合がある。

じるという。ただし，これは解釈の問題である。キナウル語では，*šed-* を使った使役文が許可を表すか強制を表すかは文脈によって決まると考えられる。

次の (15a) は，不定詞に *šed-* が続いているので使役文だが強制的ではない。命令して行かせたのではなく，許可を求められたので許可した。(15b) は，*biu/biň* が命令形であり,「行け」という命令文を先に発している。行かせるために「行け」と言ったということであり，使役文ではない[10]。

(15) a. *gɨ.s* *aṅ* *čʰaṅ.ū* *piō* *bī.m* *šē.k*
1PRN:SG.INS 1PRN:GEN child.DAT PLN go.INF send.1s
私は息子をレコン・ピオに行かせた。

b. *gɨ.s* *aṅ* *čʰaṅ.ū* *piō* *bi.u/bi.ň* *lō.k*
1PRN:SG.INS 1PRN:GEN child.DAT PLN go.IMP/go.2s tell:3o.1s
私は息子にレコン・ピオに行けと言った。

(15b) は強制的に行かせようとしているが,「行け」と言っただけで，行ったとは含意されない。

次の 2 例は，被使役者が無生物である。(16) は，コップを置いたままにしておく。

(16) *ǰu* *glās* *ǰɨṅ.ī* *nī.m* *še.ň,* *ǰu* *ǰɨṅ.ī*
this glass:NOM here.EMPH exist.INF send.2s this here.EMPH
gyā.m.i.g.seyā
want.INF.LV.OBLG.ATTR
このコップをここに置いておけ，ここで必要だ。

次の例では，古いので壊れるにまかせ，何もできなかった，またはしなかった。この状況は意図的に壊したのではなく放っておいたので，非強制的な意味の使役である。

(17) *gɨ.s* *kim.ū* *brus.i.m* *šē.k*
1PRN:SG.INS house.DAT break.LV.INF send.1s
私は家が壊れるままにした。

(16) (17) のように，被使役者が無生物のとき動詞は意志性が低く，使役文は放置を表していると言える。

キナウル語の使役文では，次のように被使役者が動作を行わなかったことを明示できる。

[10] 使役文は項の数が増え，混乱しやすいので，よりわかりやすい構文を取ることが日常的には行われる。

(18) *amā.s* *čimed.ū* *tī* *skwan* *šē.š,* *dogō.s* *tī*
mother.INS daughter.DAT water boil:INF send.3s:HON 3PRN.INS water
ma.skwaskwa
NEG.boil:PF
母は，娘に湯を沸かさせたが，彼女は沸かさなかった。

(19) *boā.s* *aṅū* *tasmā* *ṭʰor.i.m* *še.č.e.š,* *gɨ.s*
father.INS 1PRN:SG:DAT lace untie.LV.INF send.1-2:O.PT.3s:HON 1PRN:SG.INS
ma.ṭʰor.i.k
NEG.untie.LV.1s
父は，私に靴紐をとかせたが私はとかなかった。

これは，埋め込み文の動詞が表す動作が実行されなかったことを表しているが，意味的には強制にせよ許可にせよ動作の実行には被使役者の意志が働くことを示していると言えよう。

3.2. 与格名詞の数

3.2.1. 1 項動詞

キナウル語では，基本的には一次目的語と二次目的語が区別される。一次目的語は与格形式が用いられるが，キナウル語では，意味的基準によって主格形と与格形が使い分けられる点に注意しなければならない（cf. 高橋 2010）。

次の文では，被使役者名詞が与格になっており，特定的であることを表す。

(20) *gɨ.s* *aṅ* *konyas.ū* *kin* *kim.ō* *tōši.m* *šen.n.ū*
1PRN:SG.INS 1PRN:GEN friend.DAT 2PRN:GEN house.LOC sit.INF send.INF.PINF
to.k
COP.1s
私は私の友達に君の家にいさせた。

次の例では，被使役者が主格ではなく与格でなければならないことを表す。

(21) a. *gɨ.s* *nu.pɨṅ/*nu* *aṅ* *kim.ō* *bɨn* *šē.k*
1PRN:SG.INS that:PRX.DAT/that:PRX:NOM 1PRN:GEN house.LOC come:INF send.1s
私は彼に私の家に来させた。

b. *gɨ.s* *ṭašī.pɨṅ/*ṭašī* *aṅ* *kim.ō* *bɨn* *šē.k*
1PRN:SG.INS PSN.DAT/PSN:NOM 1PRN:GEN house.LOC come:INF send.1s
私はタシに私の家に来させた。

次の例では，文法的には使役者は「私」であるが，「私が咳をした」という事態が使役者となって，タシが眠れなかったと言っており，「私」は無意志的である[11]。

(22) *gɨ.s* *mešā* *tsu.ō* *tsu.ō* *ṭašī.pɨṅ* *yag.i.m* *ma.še.k*
1PRN:SG.INS last_night cough.IMPF cough.IMPF PSN.DAT sleep.LV.INF NEG.send.1s
私は，昨夜咳をしてタシを寝かせなかった。

以上のように，被使役者は通常特定できるので，与格形を取る。埋め込み文の動詞が 1 項動詞の場合は，被使役者以外に与格名詞が現れないので，混乱はしない。

3.2.2. 2 項動詞

1 項動詞の場合と同様，2 項動詞でも被使役者は与格になる。したがって，2 項動詞の目的語が与格形の場合，2 つの与格名詞が並ぶことになり曖昧である。

次の例では，被使役者が主格であることが許されず，埋め込み文の目的語は不特定なので主格になる。すなわち，使役者は具格，被使役者は与格，埋め込み文の目的語は主格であり，すべての項の形式が異なる。

(23) a. *gɨ.s* *do.pɨṅ/*do* *tsiṭʰī* *čē.m* *šē.k*
1PRN:SG.INS that:DST.DAT/that:DST:NOM letter:NOM write.INF send.1s
私は彼に手紙を書かせた。

b. *binōd.ɨs* *hinā.pɨṅ* *gaṭōdā* *seō* *zā.m* *šed.tu.š*
PSN.INS PSN.DAT a_bit_of apple eat.INF send.PR.3S:HON
ビノードはヒーナにりんごを強制的に食べさせている。

c. *gɨ.s* *čʰaṅ.ū* *kin* *komra.ō* *tī* *kan* *šē.k*
1PRN:SG.INS child.DAT 2PRN:GEN room.LOC water bring:INF send.1s
私は，息子にあなたの部屋に水を持って行かせた。

d. *gɨ.s* *aṅ* *čʰaṅ.ū* *aṅ* *krā* *tsog.i.m* *šešē* *tō*
1PRN:SG.INS 1PRN:GEN child.DAT 1PRN:GEN hair cut.LV.INF send:PF COP
私は，息子に髪を切ってもらっている。

[11] ただし，意識的にそのようにすることはできる。

次は，埋め込み文の目的語が特定的であれば与格形で現れる。

(24) a. *nugo.nū* *nu* *sapas.ū* *san* *še.ň*
3PRN:PL.DAT that:PRX snake.DAT kill:INF send.2s
彼らに蛇を殺させなさい。

b. *gɨ.s* *do.pɨṅ* *bak^{h}or.ū* *san* *šē.k*
1PRN:SG.INS that:DST.DAT goat.DAT kill:INF send.1s
私は彼に羊を殺させた。

例 (24) は，被使役者と埋め込み文の目的語が，形式的には区別できないが，意味的に常識的な対応（人が家畜を殺すなど）から上のように解釈されると言える。

次の例は，直訳では「～するように言って，～させた」ということである。この文では，埋め込み文の目的語が 2 人称なので，埋め込み文の動詞が目的語接辞を取っている。

(25) *gɨ.s* *nu.pɨṅ* *lolō* *kinū* *toṅ.či.m* *šē.to.k*
1PRN:SG.INS that:PRX.DAT tell:3o:PF 2PRN:DAT hit.1-2o.INF send.FUT.1s
私は彼にあなたを殴るように言った。

(25) では，*lolō* がなくても上の意味に取ることができる。埋め込み文の動詞が目的語人称接辞を取っているので，「殴られる」人は 3 人称の相手ではない。

次の文は，被使役者が表現されていない。また，目的語名詞が与格形なので特定的であることを表している。

(26) *gɨ.s* *kagli.ga.nū* *leg.i.m* *šē.k*
1PRN:SG.INS paper.PL.DAT burn.LV.INF send.1s
私は（誰かに）紙を焼かせた。

被使役者は与格である。さらに，2 項動詞では，埋め込み文の目的語が特定的なら与格となるので，その場合は，意味が曖昧になりうる。

3.2.3. 3 項動詞

3 項動詞では，被使役者と，埋め込み文の受益者ががいずれも与格となることがありやや曖昧である。さらに, 直接目的語も与格になりうる。次の例 (27) では, 被使役者と埋め込み文の間接目的語がいずれも与格形（代名詞は対格形を持たないので必ず与格形になる）をとっており, いずれが被使役者であるか曖昧である。

(27) *ṭašī.s* *aṅū* *kinū* *kɨtāb* *kē.m/*ran.i.m* *še.č.e.š*
PSN.INS 1PRN:SG:DAT 2PRN:SG:DAT book give:1-2O.INF/give:3O.LV.INF let.2O.PT.3O:HON
タシは私にあなたに本を与えさせた。

しかし，例 (28) では，使役動詞 *šed-* が，1–2 人称目的語接辞を取っており，2 つの与格名詞は *kinū* が被使役者となることは明らかである。

(28) *ṭašī.s* *kinū* *an.u* *konyas.ū* *pʰōṭū* *ran.i.m* *še.č.e.š*
PSN.INS 2PRN:SG:DAT self.GEN friend.DAT photo give:3O.LV.INF let.1-2O.PT.3S:HON
タシはあなたに写真を彼の友達に与えさせた。

次の文のように，2 つの与格名詞がいずれも 3 人称の場合は，動詞に目的語人称接辞がつかないので曖昧になる。次の文では，Ram を被使役者と取るのがわかりやすい解釈である。

(29) *ṭašī.s* *rām.ū* *mayā.pɨṅ* *rupyā* *ran.i.m* *šē.š*
PSN.INS PSN.DAT PSN.DAT money give:3O.LV.INF let.3S:HON
タシはラームにお金をマヤに与えさせた。

形式的には Maya を被使役者とする「タシはマヤにお金をラームに与えさせた」という解釈も可能である。ただし，その意味では *rāmū* と *mayāpɨṅ* の位置を入れ替えた方がよい。すなわち，語順で意味が決まる。

3 項動詞では，使役者以外の名詞がすべて与格になる可能性がある。ここでは，その例を示していないが，被使役者と埋め込み文の受益者がともに与格になる場合，両方の動詞に目的語接辞が現れるか，または両者とも現れない文では曖昧である。

3.3. 共格名詞が現れるかどうか

次の使役文からわかるように，1 項動詞または 2 項動詞では被使役者に共格を使うことはできない。

(30) *boā.s* *aṅū/*aṅ raṅ* *deyarō* *rim.ō* *kamaṅ* *lan.i.m*
father.INS 1PRN:DAT/1PRN:GEN COM everyday field.LOC work do.LV.INF
še.č.e.š
send.1-2O.PT.3S:HON
父は私に毎日畑で仕事をさせた。

しかし，以下に見るように，3 項動詞では共格名詞が被使役者のように振る舞うことがある。

(31) は使役の意味を持つ文であるが，被使役者に共格名詞[12]が用いられており，さらに使役動詞 *šed-* が現れていない。

(31) a. *boā.s* *aṅ* *raṅ* *an.e.nū* *konyas.ū* *tsiṭʰī* *ker.a.š*
father.INS 1PRN:GEN COM self.PL.DAT friend.DAT letter give:1-2o.PT.3s
父は私に手紙を彼の友達に送らせた。

b. *boā.s* *aṅ* *raṅ* *hinā.pɨṅ* *tsiṭʰī* *ker.a.š*
father.INS 1PRN:GEN COM PSN.DAT letter give:1-2o.PT.3s
父は私に手紙をヒーナに与えさせた。

上の例では，父が友人宛 (31a)，Heena 宛 (31b) の手紙を書いて，それを友人または Heena に送ってくれと私に頼み，私はそれを送ったという意味であり，結果的に使役の意味になる[13]。

(32) *gɨ.s* *nū* *raṅ* *kin* *kɨtāb* *ranran/*kēkē* *šē.k*[14]
1PRN:SG.INS that:DST:GEN COM 2PRN:GEN book give:3o:PF/give:1-2o:PF send.1s
私は，彼にあなたの本を持って行かせ，あなたに与えさせた。
（＝私は彼にあなたの本をあなたに与えさせた。）

以上の文で特徴的なのは，「与える」の意味の動詞が対象とする受益者名詞にずれがあることである。すなわち，動詞 *kēm* は 1・2 人称を受益者，*ranim* は 3 人称を受益者とする動詞であるが，上の例ではそうなっていない。この点，インフォーマント自身はこの構文で上のような対応になることを当然のこととととらえているが，構文の分析は今後の課題である。

(33) では，共格が使役文でも 3 項動詞とも使えるが (33a)，与格は使役文では使えるのに，3 項動詞のみだと使えないことがわかる (33b)。

(33) a. *gurujĭ.s* *čʰaṅ.ā* *raṅ* *an.e.nu* *taṅes* *tsiṭʰī* *(šen)* *šē.š*
teacher.INS child.PL COM self.PL.GEN for letter send:INF send.3s:HON
先生は自分宛に生徒たちに手紙を送らせた。

[12] このような共格の用法は，高橋（2010）の発表以降にわかったことなので，そこでは紹介していない。
[13] ただし，*aṅ raṅ hinā* が一つの句となって「父は私とヒーナに手紙を送った。」という意味にもなる。これは，*aṅ raṅ* が *hināpɨṅ* の前にあるために「A と B」と解釈されやすいからである。
[14] この *šēk* は，むろん使役構文を構成する *šēd-* と同じ動詞であるが（1 人称過去形になっている），ここでは完了形の動詞に後続しており，使役を表すものではない。

b. *guruǰī.s* *čʰaṅ.a.nū* *an.e.nu* *taṅes* *tsiṭʰī* *šen/*Ø* *šē.š*
teacher.INS child.PL.DAT self.PL.GEN for letter send:INF send.3s:HON
先生は自分宛に手紙を生徒たちに送らせた。

次の例文は (33b) と同じである。与格名詞では，使役構文でなければならない。

(34) *boā.s* *an.e.nu* *taṅes* *aṅū* *kɨtāb.ē* *šen/*Ø* *še.č.e.š*
father.INS self.PL.GEN for 1PRN:DAT book.PL send:INF/Ø send.1-2o.PT.3s
父は自分宛にその本を私に送らせた。

次の (35a) は使役文であり，共格名詞は「彼と一緒に」という意味（与えられる人は明示されていない）であり，(35b) は使役文で，共格名詞で被使役者を表せない。

(35) a. *aṅ* *boā.s* *aṅū* *nū* *raṅ* *kɨtāb* *ran.i.m*
1PRN:GEN father.INS 1PRN:DAT that:PRX:GEN COM book give:3o.LV.INF
še.č.e.š
send.1-2o.PT.3s:HON
私の父は（他の人に）本を与えるために彼と私に行かせた。

b. *aṅ* *boā.s* *nu.piṅ /*nū raṅ* *aṅū* *kɨtāb*
1PRN:GEN father.INS that:PRX.DAT/that:PRX:GEN COM 1PRN:DAT book
ran.i.m/kē.m *šē.š*
give:3o.LV.INF/give:1-2o.INF send.3s:HON
私の父は彼に本を私に与えさせた。= (33a)

以上の例からわかるように，3 項動詞の使役文では被使役者は与格でも共格でも良い場合があるが，共格が許されるのは，物の移動があるやり貰いの動詞の時である。また，共格名詞は運び手を表すだけで，その場合，物の受け手は明示されない。物の受け手を明示する場合は，動詞は *šed-* に限られる。

3 項動詞では，共格名詞が被使役者の役割を担うことがあるが，構造上の分析などは今後の課題である [15]。

[15] 人文研での研究会の際，共格名詞が現れることについて加藤昌彦氏より，3 項動詞の使役文では，与格名詞が重なることになるため，混乱を裂けるために共格名詞が現れることがあるとご教示を賜った。その時点では，キナウル語でもそのようになっていると考えたが，本節で見たように，キナウル語ではそのようになっていない。

3.4. 否定

使役文の否定は，使役動詞 *šed-* に否定辞を付けることによって表される。

(36) a. *rabindar.ɨs* *aṅū* *pož.u* *den* *tōši.m* *ma.še.č.ē*
PSN.INS 1PRN:DAT carpet.GEN upon sit.INF send.1-2o.PT
ラビンダルは私にベッドの上に坐らせなかった。

b. *rabindar.ɨs* *aṅū* *pož.u* *den* *ma.sto.č.ē*
psn.INS 1PRN:DAT carpet.GEN upon NEG.make_sit.1-2o.PT
ラビンダルは私にベッドの上に坐らせなかった。

なお，(36b) は s- 使役であるが，上の 2 文は同じ意味である。

(37) *aṅ* *boā.s* *aṅ* *atē.pɨṅ* *rim.ō* *gaḍā* *kor.i.m*
1prn:GEN father.INS 1PRN:GEN elder_brother.DAT field.LOC hole dig.LV.INF
ma.šē.š
NEG.send.3s:HON
私の父は，兄に畑で穴を掘らせなかった。

本稿では，u-不定詞を使う例を挙げなかったが，次の例のように，否定文では u-不定詞が使えないことがあるので，単純不定詞と u-不定詞の間で違いがあることは明らかだろう。

(38) *mē* *gɨ.s* *nu.pɨṅ* *piō* *bī.m/*bī.m.ū* *ma.še.k*
yesterday 1PRN:SG.INS that:PRX.DAT PLN go.INF/go.INF.PINF NEG.send.1s
私は，昨日レコン・ピオに彼を行かせなかった。

次の例は禁止を表す。禁止も同様に *šed-* に禁止の接頭辞が付加される。

(39) *ādarš.ū* *ǰu* *panṭ^{h}aṅ.ō* *bɨn* *t^{h}a.še.ň*
PSN.DAT this room.LOC come:INF PROH.send.2s
アーダルシュにこの部屋に入らせるな。

次のように「～しないようにした」という意味では，埋め込み文の動詞に否定辞が付く。

(40) *čʰaṅ.a.nū* *ma.kʰyā.m* *šen.n.ū* *taṅes* *tībī.piṅ* *kapʰrā.s*
child.PL.DAT NEG.look.INF send.INF.PINF for TV.DAT clothe.INS
lubyā.š
put_over.3s:HON
（私の母は）子供がテレビを見ないようにテレビに布をかけた。

ただし，否定辞がいずれかの動詞について意味が明確に異なると意識されているわけではない。

4. おわりに

本稿では，キナウル語の使役について例をあげて紹介した。

まず，キナウル語の動詞には自他対応があり，他動詞（使動詞）は，自動詞に対して使役的な意味を持つことを見た。

迂言的な使役として，動詞の不定詞形と動詞 *šed-* を使った構文を見た。*šed-* は「送る」という意味であり，この意味を保持している場合もある。

上でも述べたように，キナウル語の使役文についてまだ不明の点も残っている。とくに，不定詞と u-不定詞の違いについては，十分な結論を得られていない。また，（擬似）中動態動詞が使役文で使われる場合を，分析が不十分であったために本稿では触れなかった。今後の課題としたい。

さらに，動詞完了形と *šed-* などいくつかの動詞が結びついて，特定のニュアンスを生じることがある。*šed-* などの動詞が補助動詞的に用いられる。関連する事象として分析をしたが，使役文とは直接関係ないので本稿では扱わなかった。いずれかの機会に論文としてまとめたい。

参考文献

西義郎（1993）「カナウル語」『言語学大事典』5 巻，pp. 76–86．東京：三省堂.

Sharma, D. D. (1988) *A Descriptive Grammar of Kinnauri*. Studies in Tibeto-Himalayan Languages 1. Delhi: Mittal Publications.

高橋慶治（2010）「キナウル語（パンギ方言）の格形式と複合後置詞」澤田英夫（編）『チベット＝ビルマ系言語の文法現象 1：格とその周辺』東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，pp. 127–152.

Takahashi, Y. (2012) ‘On a suffix of middle voice in Kinnauri (Pangi dialect)’. In Nakamura, W. and Kikusawa, R. (eds.). *Objectivization and Subjectivization: A Typological of Voice Systems*, Senri Ethnological Studies 77, Osaka: National Museum of Ethnology, pp. 157–175.

高橋慶治（準備中）「キナウル語動詞の非定形について」.